

街全体が美術館

「旧居留地ミュージアム構想」

はじめに

旧居留地は、ビジネス街でありながら観光地でもあり、商業・文化の複合した機能を持つ地域です。建築群、歩行空間、商業、文化施設において“神戸らしさ”を演出してきました。しかしながら今回の阪神大震災では、大きな被害を被ってしまいました。

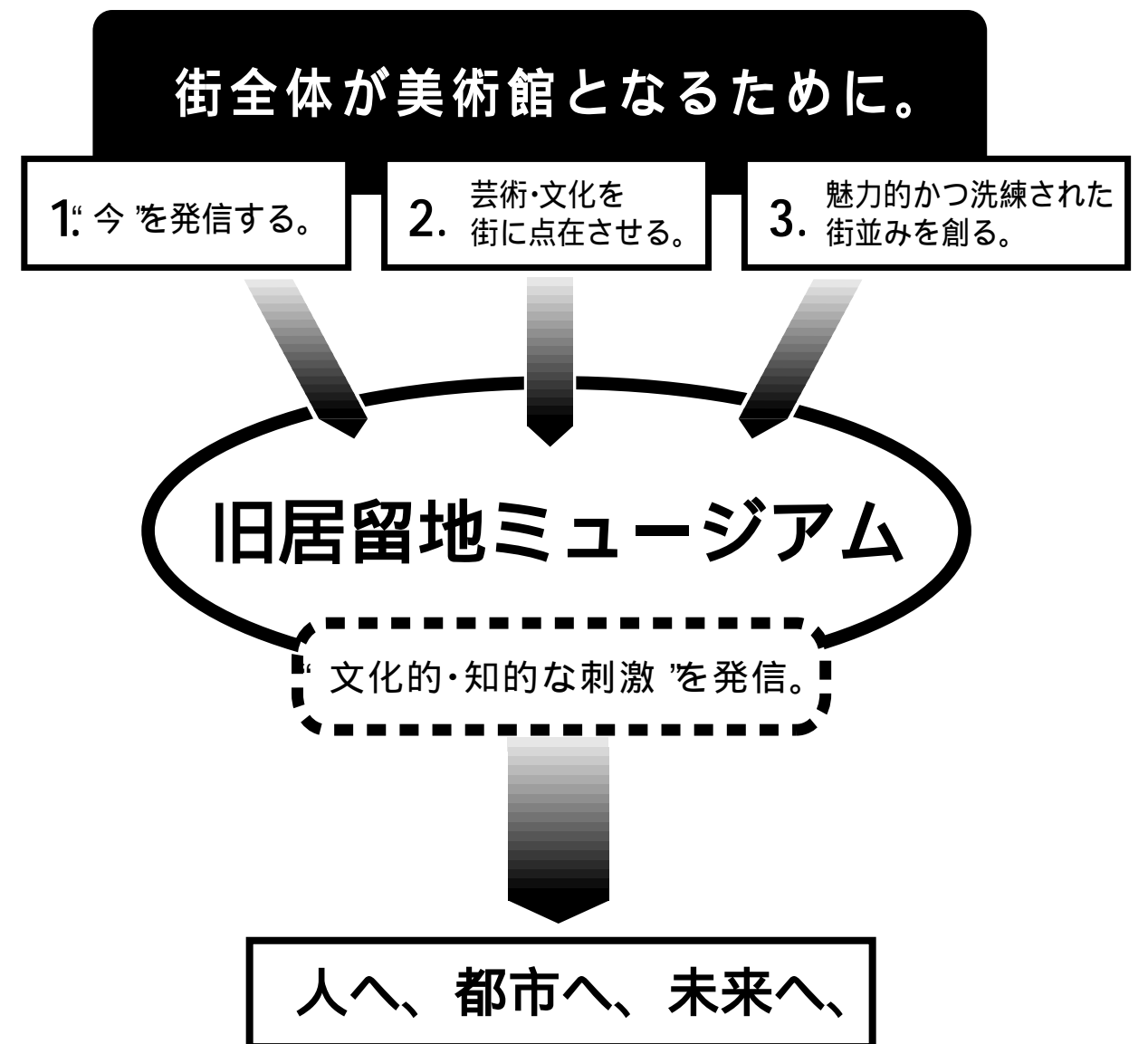
そもそも居留地は、開港とともに外国人に与えられた通商・貿易のための拠点としての街です。それは当初から都市計画の整った街でした。この国際的でハイカラな街の活況は、商業の街としてだけでなく、建築や生活文化などさまざまなジャンルにおいて、私たちの感性と知性を刺激し、イマジネーションを与えてくれました。この“文化的・知的な刺激”としての居留地の特徴こそ、21世紀に伝えていくべき“神戸らしさ”なのだと考えます。そして、そうした特徴を私たち自らの手で新たに作り上げていくための「旧居留地ミュージアム構想」を提案します。

《 — 街全体が美術館となる — 旧居留地ミュージアムとは》

美術館へ足を踏み入れると、気持ちのよい緊張感と知的な興奮を覚えると思います。日常生活空間では得られない、自分自身を高めることができる空間が、建物の中ではなく旧居留地全体だとしたらどうでしょう。街の中心に美術館をいただくところは無数にあります。私たちの言う旧居留地ミュージアムとは、街に美術館ではなく、“街全体が美術館”となるためのプランです。

旧居留地ミュージアム構想を実現させるためには、次の、3つのプランを具体化することが不可欠です。

1. “今”を発信するための芸術センターを設立する。
2. 芸術・文化を体感できる空間を街に点在させる。
3. 美術館として相応しい魅力的で、かつ洗練された街並みを創る。



【街全体が美術館という発想から、3つの構想を発展させていくことによって旧居留地らしい、知的刺激に満ちた新しい街づくりが可能となります。】

1.

“今”の文化を発信する。 —(仮称)旧居留地芸術センターの設立—

現代社会の中では、様々な私たちの新しい芸術文化が生まれています。それらは、世代や国境を越えた、共通の言葉となって知性を刺激しています。旧居留地ミュージアムでは、既存の美術館では取り上げにくい現在進行形の芸術に焦点をあてます。これらの芸術文化(“今”の文化)を発信することは、現代の生きる街として、確かな存在を示すことになるでしょう。

1 ミュージアムの核となる 旧居留地芸術センター の設立

旧居留地の再生と共に立ち上がる芸術文化を育てるために、営利を目的としない芸術研究機関を含んだ柔軟かつ先鋭的な視野を持って運営させる、ミュージアムの核となる芸術センターの設立が必要と考えます。

2 主な活動内容

ここでは、国内外問わず他の芸術機関や美術館、大学とのネットワークにより集めた情報や資料を基に企画運営を行います。また、それらの機関とのタイアップによる企画やシンポジウムを開催すると共に、互いの意見や考え方を交換できる現代芸術の拠点としての役割を果たします。

芸術センターの活動内容

展覧会の企画運営

様々な形態の展覧会を企画・運営し新しい表現の可能性を追求します。又、それらの活動を紹介するインフォメーションとしての役割も果たします。

国内外とのネットワーク

国内の美術館や芸術機関、大学とネットワークを結び、現代芸術に関する幅広い情報や資料を収集すると共に、互いのアーティストの交換展やシンポジウム、講演会を行います。

市民参加型の芸術講座

広く、新しい芸術文化を浸透させるために、市民の参加できる様々な芸術講座を設け、共に意識のレベルアップを図ります。

芸術教育プログラム

各種教育機関とのネットワーク化をはかり、アーティスト等による、学生を対象としたプログラム(講座・校外見学など)を組み、芸術に親しみ理解していく心を育てます。

機関誌などの発行

研究機関の活動や情報を、定期的にまとめたニュースレターやプログラム等の編集、発行します。



展覧会・レクチャーなどのさまざまな企画立案と実行。

2.

芸術・文化を街に点在させる

— 街のなかに巡回できる複数のスペースを配置 —

例えば美術館の各部屋が、旧居留地全体に点在した状態をイメージしてみてください。人々は探索しながらその街に分散した展示空間を訪れます。そして展示室から展示室へと至る通路が、ここではすべての街並みとなります。オフィスで働く人々や、ショッピングに訪れる人が、街の景観や緑を楽しみ、休息しながら展示空間へと至るのです。その点在する空間は、様々な新しい芸術との出会いの場であるとともに、人と人との交流を通じた新しい創造の場となります。

1 魅力的な空間の活用

旧居留地内には、幸いに震災をまぬがれた魅力的な空間が残されています。これから新しくつくられる空間も含めて、その魅力を十分に引き出しながら活用していきます。様々な芸術とそこで出会うことによって、人々は、隠された街の魅力に気がつくことでしょう。

2 人々の交流の場となる芸術空間の配置

旧居留地内の各所に、芸術と文化の発表・交流の場となる「専用スペース」を数ヶ所確保し点在させます。また、企画に応じて、ビルのロビーや空きスペース、公共空間、ストリートなどの「流動的なスペース」も積極的に利用していきます。

<特長の異なった専用スペースとして>

1. 天井高のある、ゆったりとしたスペース
2. 外光の入る、明るく開放的なスペース
3. 地下室等の、暗転可能なスペース
4. 屋上や公開空地等の、オープンエアスペース 等、

点在するスペースでは、芸術センターが企画する様々な催しが行われます。

< 展覧会 >

現代美術等の企画展及び、国内外の芸術機関との交換展。

< ライブアート >

音楽・演劇・舞踊・パフォーマンス等の発表。

< 上映会 >

映画、ビデオ、スライドなどの上映。

< レクチャー >

様々な企画や展覧会にそった講演会。

< ディスカッション >

アーティスト、研究者、一般市民の参加による研究会。

< リソースセンター >

インターネットなどによる、国内外の資料の収集・提供。

< ワークショップ >

市民対象としたアーティストによる公開制作及び指導。

< アーティスト・イン・レジデンス >

アーティストの滞在ならびに現地制作。

< ミュージアムショップ >

良質な芸術・美術書を中心にカタログ・CD・ビデオ、オリジナルグッズ等の販売。

< カフェ >

市民やアーティストの語らいの場となり、展覧会等のオープニングパーティーも行います。

3.

魅力的かつ洗練された街並み

— 美術館にふさわしい景観と魅力の充実 —

街全体が美術館というコンセプトのもとに、ビジネス街としての旧居留地には、それに相応しい環境や、建物、歩行空間、美しい景観が必要と考えます。例えば、経済効率だけが目的の施設や、表面的な観光目的の建物が建たないように街として規制を設け、街並みにふさわしいデザインを考え、さらに必要かつ魅力的な施設や企業を積極的に誘致し、協力を求めることによって、旧居留地は、街の散策そのものをも文化的刺激として取り込んだ新しい芸術・文化のミュージアムゾーンとなります。

1 美術館にふさわしい景観づくり

旧居留地の街並みには、展示室から展示室へと至る通路としての役割をもっています。街のすべてが美術館という発想のもとに、景観を大切にしたいデザインコントロールが必要と考えます。

歩行空間を魅力ある快適なものにします。

歩行空間の演出物である敷石・ベンチ・街灯・街路樹の質を向上すると共に、より美的なものにします。

サインなどに規制を設けます。

サインの色や大きさなどを厳しく制限していきます。又、屋外広告等も街並みにふさわしい一定の基準を設けるべきと考えます。

建築物のデザインコントロール

新たに建設されるビル等の建築物を、旧居留地の景観に相応しい物にするために呼びかけていきます。

2 美術館としての魅力の充実

経済や文化の情報交換や交流を深めてゆくため、又、新しい人の流れを生むために、以下のような施設や機能を充実させる必要があると考えます。

旧居留地にふさわしい新たなシンボルづくり

旧居留地の位置的、精神的中心であるオリエンタル・ホテル跡地に新しいシンボルとなる施設を誘致します。

- ・旧居留地の応接室としての役割をはたす格調ある良質なホテル。

- ・ミラノのガレリアを基本コンセプトとしたパサージュの建設、そこには、レストランや花屋、画材屋といった様々なショップが集まります。等、

旧居留地内に外国の各種施設を誘致。

外国領事館、国際的機関等を誘致します。さらにそこに勤める人々が利用する施設を街の中に設定。自然でリラックスしたコミュニケーション空間を創ることによって、かつての居留地のように、様々な文化的刺激を与え続けることができます。

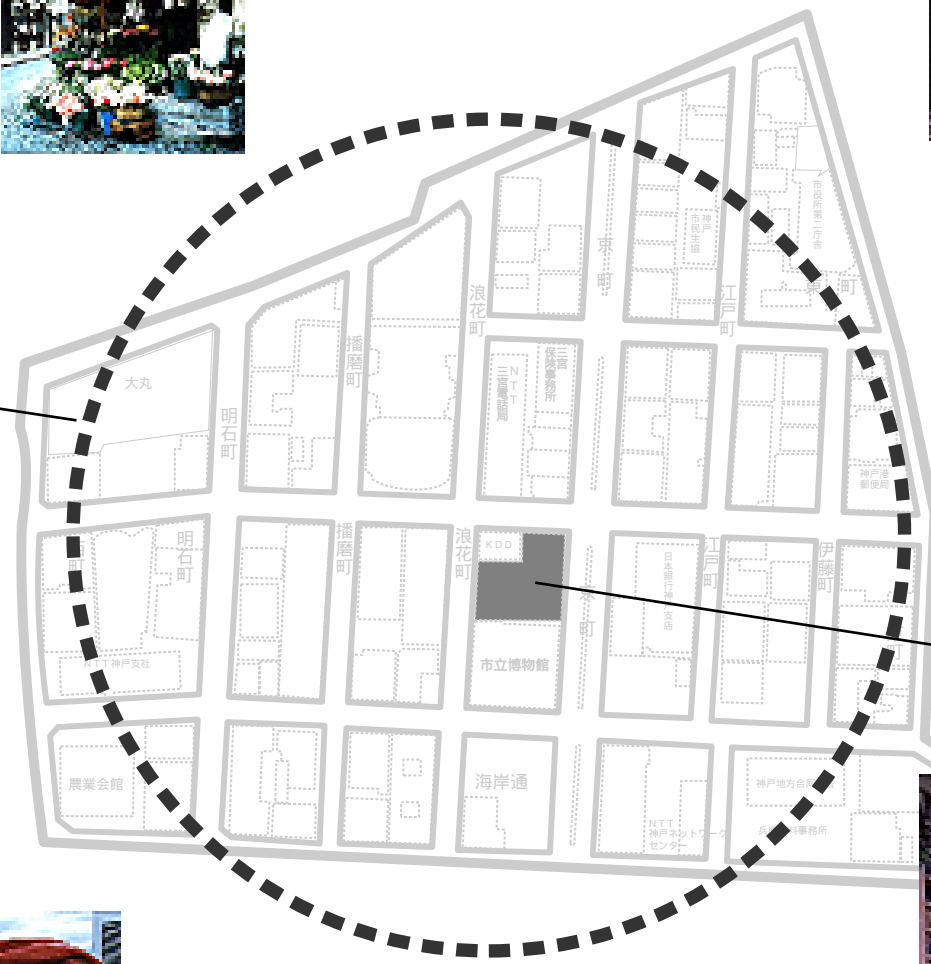
旧居留地活性化のキーとなる国際価格の設定

外国施設の誘致は、イメージや公的な働きかけでは実現できるものではありません。そこでは、便利さや環境そしてコストのバランスがとれてはじめて可能となります。世界的に見て割高感のない価格設定ができるよう、新しい街づくりシステムを開発する必要があると考えます。

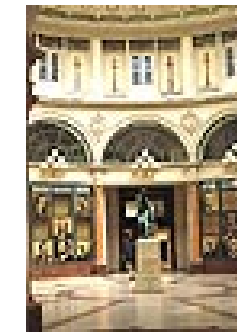
Image



景観イメージ



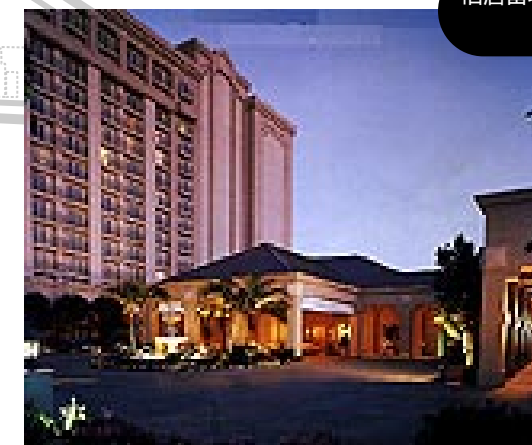
様々な小さなショップやオフィスが集まる
パサージュ



旧居留地にふさわしい新たなシンボルづくり



旧居留地の応接間の役割を持つ
ホテル



こうした文化・芸術の施設計画は、都市の中心に位置し、人々の集まる場所こそ意味を持ちます。人々がそこで働き、買い物をし、散策する街としての旧居留地は、人々に根付いた文化を生み出すにふさわしい街だと言えるでしょう。私たちC.A.P.は、震災により大きな被害を被った旧居留地の魅力ある景観の復興と経済のさらなる発展、国際的な新しい文化の構築を願い、ここに「旧居留地ミュージアム構想」を提案いたします。

<おわりに>

この度の震災で、人間本来の美しさや人情の温かさを知ると同時に形あるものへの価値観を再認識させられました。このことは、私達ひとりひとりが公平に分担し、教訓として胸にしっかりと刻み込まねばならないことだと考えます。

神戸の復興が一日も早く来ることを願うとともに、人にとって本当に価値あるものを、皆さんと共に考えていきたいと思えます。

C.A.P.事務局 〒650 神戸市中央区江戸町100 高砂ビル413. TOMO'S 内
Tel/Fax:078 [331] 0592

アシスタント事務局 〒659 芦屋市松ノ内町3-14 チェリービュウ芦屋川410
DIAMOND INC.
Tel:0797 [38] 7449 Fax:0797 [38] 7330